Biz Life Style × Shinagawa City 品川区

働く男のライフスタイル情報紙

BiZ Life Style [ビズスタ東京] 特別版

2019 09

『BizLifeStyle』は東京、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島にて55.4万部発行
下記URLまでアクセスを。
www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005
企画・制作／株式会社デイリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
©2019 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

東京2020 オリンピック・パラリンピックまで あと1年! 品川がアツい!

ホッケー女子日本代表チーム「さくらジャパン」で活躍したオリンピアン、藤尾香織氏。品川区東京2020大会コミュニケーターを務める彼女は、現在、専門非常勤職員として品川区役所に勤務している。先ごろ、新設の「大井ホッケー競技場」の完成披露式典が開催された同区では、東京2020大会で計2競技の開催を予定。そこで今回は、機運も高まる区の近況、今後の意気込みなどについて藤尾氏にうかがった。

ホッケー
会場:大井ホッケー競技場(品川区八潮4-1-19)
日程:2020年7月25日～8月7日

藤尾香織さん
オリンピアン
元ホッケー日本代表
品川区専門非常勤職員

―まず「コミュニケーター」という役割について教えてください。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)では、品川区はビーチバレーボールとホッケーの競技会場となっています。競技自体をご覧になったことがない方も多いので、イベントなどを通して競技の魅力をPRし、認知度向上に貢献するための活動を展開しています。

―競技と区民を結びつけるような役割ですね。

そうですね。もともとホッケーの魅力を広めたいという意欲があったので、自治体として想いを共有していてくださると知り、感激しました。

―品川区には、実際に勤務しておられますよね。

そうなんですよ。ゲストとしての参加では見えにくい運営の細部を間近に見ることができて、とてもよい経験になっています。

―品川区は、東京2020大会に向けた機運醸成を図るために積極的に活動する区という印象が強いように思います。

うれしいことですよね。オリンピック・パラリンピックの自国開催は、多くの方にとって深く記憶に残る大イベントだと思います。それに仕事として直接的に関われるのは、大いに誇りに思いますね。私の周囲の皆さんも、とてもアグレッシブに取り組んでいて、本当に忙しそうですよ。

―品川区の応援競技であるブラインドサッカーも含めて、各競技をPRするための取り組みは?

ビーチバレーボールでは公道に砂を敷き詰めて国内ツアーを開催したり、ホッケーでは実際の競技会場でエキシビションマッチを行ったりしてきました。ブラインドサッカーは、来年の3月に天王洲公園で国際大会も開かれる予定なんですよ。できるだけ皆さんに「生で観戦できる機会」を提供する方針で動いています。

―生観戦は、やはり臨場感が違いますよね。

至近距離なら、選手の息づかいまで手に取るように分かりますからね。感動の大きさが違いますし、競技に対する愛着も自然に高まるものです。区民の方から「楽しみにしています」とお声掛けいただくと、自分のことのようにうれしく感じます。

―藤尾さんご自身も過去のオリンピックに出場されていますが、何か印象に残ったことはありますか?

ロンドン大会は自由にまちに出られたのですが、まち全体のテンションが高くて。ホッケーのイングランド戦では、サッカーのチャンピオンズリーグのような盛り上がりでしたね。地面が揺れるような雄叫びで、もの凄い熱気なんですよ。ホッケーであれだけの歓声を受けたのは初めての経験だったのでゾクゾクしました(笑)。

―そうなると、品川区民もロンドンっ子に負けられませんが、盛り上がりはいかがですか?

最近のイベントでは手応えを感じています。開催まであと1年となりましたが、昨年と違い、こちらから大声で呼びかけなくても、多くの方がホッケーのブースに来てくださるようになりました。これからヨーロッパやオセアニアのように人気が高まるかもしれませんので、大会後の盛り上がりについても期待しているんですよ。

―最後に、意気込みを。

ホッケーやビーチバレーボール、ブラインドサッカーの魅力について、区の関係者として全力で区民にお届けしたいですね。今の夢は会場が満員になることですし、コミュニケーターとしての役割を果たすことが目標です。その後は、この3競技が品川区のスポーツ文化の中に根ざすことになればうれしいですね。

藤尾 香織さん

1981年東京都国立市生まれ。品川区在勤。父の転勤でホッケーが盛んな山梨県南アルプス市に移り住み、ホッケーに出会う。大学1年時に日本代表に初選出。アテネ(8位)、北京(9位)、ロンドン(10位)と3大会連続でオリンピックに出場。2006年には、日本人初の世界最高峰オランダリーグへ参戦。2018年4月より品川区に勤務し、品川区東京2020大会コミュニケーターとしてホッケーの魅力を伝えている。

東京2020大会まであと1年！
品川区のスポーツ大使がイベントでアピール

東京2020大会も、開催まであと1年。ホッケーとビーチバレーボールの競技会場となる品川区では、2019年7月28日、区立総合体育館で「みんなであそぼっ！スポーツフェスタOZ」と題したイベントを開催した。

当日は、「しながわ2020スポーツ大使」として活動中の伊藤華英氏(元競泳日本代表／オリンピアン)と大前光市氏(義足のプロダンサー)、そして表紙でもご紹介した藤尾香織氏(元ホッケー日本代表／オリンピアン)が登壇。品川区在住の噺家・柳家三之助氏の司会進行のもと、にぎやかなトークセッションが行われた。

「海外の友人から『日本はすばらしいね』と褒められることも多いです」と話す伊藤氏だが、現状に満足することはなく、若い世代にもっとスポーツのすばらしさを伝えたいという思いが強まるばかりとか。「世界中の人が同じ場所に集まり、まち全体が大会一色に染まるのは圧巻。東京もそうなるので、観戦を楽しみながらスポーツの持つ可能性を体感して欲しいですね」と、にこやかに語った。

品川区東京2020大会コミュニケーターとして実際に区役所に勤務している藤尾氏は、各種イベントに参加するだけでなく、区報のコラム執筆まで担当しているとか。伊藤氏と同様に選手としての出場経験を踏まえながら、「競技会場はとにかく特別な雰囲気で、見るからにアドレナリンが溢れ出している人もたくさんいる。そんな特別な光景を、ぜひ体験して欲しいと思います」と、オリンピック・パラリンピックの魅力をPRした。

選手としてではなく、リオ大会の閉会式で素晴らしいダンスを披露した大前氏は、品川区応援競技であるブラインドサッカーを念頭に、印象的なトークを聞かせてくれた。「一般に、人は視覚に頼り過ぎている傾向があると思います。ということは、それ以外の能力を眠らせている。人間が持つ力を引き出すスポーツの魅力を体験する上で、ブラインドサッカーの観戦はすばらしい機会となるはずです」と力を込めた。

今大会では、43の会場が用意される。新しい会場は8カ所で、そのうちの2つが品川区につくられる。1年後に向けて着実に準備が進められている。そんな機運の高まりを実感するトークイベントとなった。

都立潮風公園

大井ホッケー競技場

一緒に盛り上げよう！ しながわ2020スポーツ大使 プロフィール

いとう はなえ
伊藤 華英 さん

1985年1月18日生まれ、埼玉県さいたま市出身。品川区在住。ベビースイミングから水泳を始め、2000年日本選手権に15歳で初めて出場。翌年の世界選手権(福岡)から女子背泳ぎ選手として注目され始め、2008年北京五輪で初めてのオリンピック出場。2009年から自由形に転向し、2012年ロンドン五輪自由形の代表選手となる。2018年よりしながわ2020スポーツ大使として活動。

おおまえ こういち
大前 光市 さん

1979年9月27日生まれ、岐阜県下呂市出身。品川区在住。大阪芸術大学でクラシックバレエを学ぶ。プロダンサーとして活動を始めた24歳の時、交通事故で左膝下を切断。ダンスの演目に合わせ、長短様々な義足を使い分け、なめらかで魅力的なダンスにより、観る者を惹きつける。リオパラリンピック閉会式にてダンスパフォーマンスを披露し、世界を魅了した。2018年よりしながわ2020スポーツ大使として活動。

©JBFA

かわむら りょう
川村 怜 さん

1989年2月13日生まれ、大阪府東大阪市出身。5歳の頃、目の病気である「ぶどう膜炎」が見つかり徐々に視力が低下。しかし、活発な性格でほとんど視力低下による不自由さを感じることはなく、「サッカー選手になりたい」という夢を追いかけ、小学1年生の時にサッカーを始める。中学では陸上部に所属も、鍼灸マッサージ関係の資格取得を目指し、2007年に進学した筑波技術大学でブラインドサッカーと出会う。2018年よりしながわ2020スポーツ大使として活動。

東京2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会 注目選手 ミニインタビュー

坂口佳穂 選手
ビーチバレーボール
会場:都立潮風公園(品川区東八潮1)
日程:2020年7月25日～8月8日

川村怜 選手
ブラインドサッカー
会場:青海アーバンスポーツパーク(江東区青海1-1)
日程:2020年8月30日～9月5日

―ブラインドサッカーを応援競技としている品川区のイメージは?

スポーツに対する区民の関心や理解が高いだけでなく、実際に会場に足を運んでくださる方も多いという印象がありますね。ブラインドサッカーのスポ育(体験型授業)で学校を訪問する機会が多いのですが、小中一貫教育(9年間の一貫教育)にも力を入れていて、子どもの教育に熱心な自治体というイメージも強いです。

―ブラインドサッカーに対する区民の反応はいかがですか?

競技そのものが浸透してきたという手応えは感じますよ。昨年、品川区で開催された東日本リーグでも、意外なほどルールが認知されていて、こちらが驚いたくらいです。また、私個人のことを知っている区民の方にも、たくさんお会いしました。実際に観に来てくださる方も多くて、うれしかったですね。

―東京2020大会に向けて、区民の方々に期待することは?

とにかく試合を観に来て欲しいですね。ブラインドサッカーという競技は特別なものではなく、皆さんにとっても身近な存在であることをご体感いただきたいです。そのためにも、さらに多くの皆さんに競技の魅力をお知らせしていきたいです。

―自身の活動と今後の抱負は?

私自身がプレーをお見せすることでこのスポーツのファンを増やしていきたいと考えていますので、まずは試合で頑張りたいですね。

―では、いよいよ来年に迫る東京2020大会への意気込みをお願いします。

チームとしての目標は、やはりメダル獲得に尽きます。自国での開催でもありますので、いつも以上に素晴らしいプレーをお届けしたいですね。個人としては、とにかく「世界一のプレーヤーでありたい」という心ですので、あと1年、さらなる高みを目指して精進していきます。

かわむら りょう
川村 怜 選手

1989年2月13日生まれ、大阪府東大阪市出身。アクサ生命保険株式会社、ブラインドサッカークラブチーム「パペレシアル品川」所属。2016年より日本代表の主将を務める。しながわ2020スポーツ大使としても活動中。

―ビーチバレーの魅力を教えてください。

インドアのバレーボールとは違い2人で挑む競技ですので、自分のすべてのプレーが必ず結果につながるという緊張感が心地よいですね。また、砂や天気などの不確定要素に左右されやすい点も大きな特徴です。

―ビーチバレーボールは、会場の雰囲気も独特ですよね。

音楽が鳴っていて、DJもいますからね。選手だけではなく、観客も楽しい空間になっているんですよ。

―これは日本だけではないんですよね?

世界中で同じです。海外は特に盛り上がるんですよ。観客もノリがよくて、声援も大きいです。

―試合会場で音楽が流れるなんて、知らない方も多いですよね。

そうなんです。あまり認知されていないので、ぜひ会場に足を運んで、楽しんでいただきたいですね。

―坂口さんがビーチバレーボールを始められたのも、観戦の楽しさに触れたことがきっかけだったとか。

インドアのバレーボールから入る選手が多いんですけど、私の場合は、初めての観戦で迫力や雰囲気に感動したのがきっかけでした。

―品川区では大井町駅前でもビーチバレーボールの大会をやったそうですね。

公道に砂を敷き詰めてつくられた会場は、海外ではよく見かけるのですが、日本国内では品川区が最先端かもしれませんね。

―では、東京2020大会に向けて、品川区民にメッセージを。

リオ大会でもロンドン大会でも、最もチケットが売れた競技のひとつが、ビーチバレーボールだったんです。きっと日本でも盛り上がると思いますので、ぜひ注目していただきたいです。

さかぐち かほ
坂口 佳穂 選手

1996年3月25日生まれ、宮崎県串間市出身。マイナビ/KBSC所属。2014年大学入学とともに川崎ビーチスポーツクラブビーチバレーアカデミーに入校し、本格的にビーチバレーを始める。

柳家三之助 師匠がひとこと解説! 品川区が応援する3競技の魅力

ケーブルテレビ品川で、区内で活躍する人や団体を紹介するレギュラー番組を持つ噺家、柳家三之助氏。番組の取材などを通して実際に経験した「品川区応援3競技」の魅力について、ご自身も品川区内に在住する三之助師匠に語ってもらった。

やなぎや さんのすけ
柳家 三之助 さん

1973年5月1日生まれ。品川区在住。1995年9月、十代目柳家小三治に入門。1996年5月、前座名「柳家小ざる」を名乗る。1996年6月、寄席の楽屋入り。1999年11月、二ツ目昇進「柳家三之助」と改名。2010年03月、真打昇進。

ホッケーの魅力は?

思い通りにならないから面白い。簡単に見えるけど、とても難しいんですよ。なんだか"曲者"みたいなスポーツなんですよ。

ビーチバレーの魅力は?

実際に砂の上でプレーしたときは、しこたますりむきました(笑)。ユニフォームも派手で、音楽も流れる"魅せる"スポーツですな。

ブラインドサッカーの魅力は?

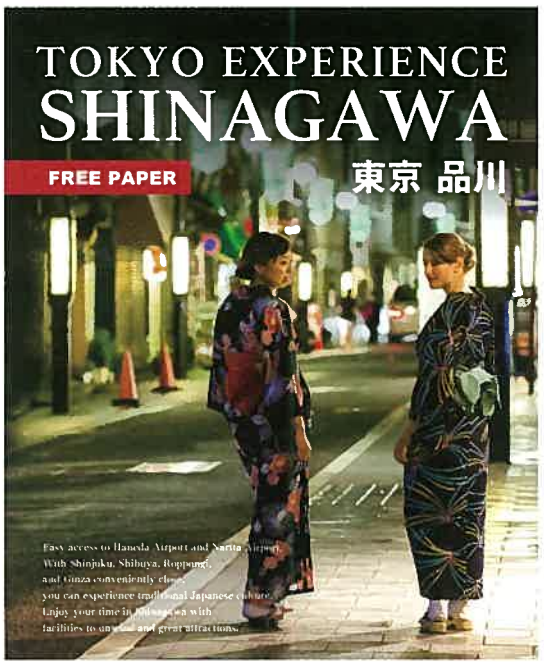
聴覚を研ぎ澄まして、声をかけあって、みんなの動きを想像しながら…。"普段は気がつかないことに気づくことができる"スポーツかもしれませんね。

Biz Life Style Pick up

ケーブルテレビ品川の品川区広報番組「三之助の笑顔いっぱい とっておきの品川」YouTubeでも配信中!

三之助の 笑顔いっぱい とっておきの品川

わ!しながわ 外国人向けフリーペーパー「TOKYO EXPERIENCE SHINAGAWA」



訪日した外国人向けに、英語版フリーペーパーを発行。
JR品川駅からも歩いて散策できる旧東海道では、日本の伝統文化を感じらせるスポットや日本食を堪能できる飲食店がたくさん。旧東海道のおすすめスポットのほか、イベント情報なども掲載している。
区内イベント会場でも配布予定。

東京2020大会に向けて ホントの品川区の魅力を広く発信

いよいよ開催が迫ってきた東京2020大会をさらに盛り上げるために、多種多様なイベントを活発に開催している品川区。その努力が実り、ホッケー／ビーチバレーボール／ブラインドサッカーの3競技の魅力は、いまや区民に広く浸透しているようだ。

さらに今年は、ラグビーワールドカップが日本で開催されることから、外国人向けのフリーペーパーを制作し、日本の伝統文化を体験できる区内のスポットを紹介している。また、開幕戦などが東京スタジアムで開催されることから、京王線沿線でもプロモーションを展開。誰もが知る「品川区」だが、PRフレーズとイラストで表現された品川区の魅力は、意外性があっておもしろい。

そのほか、この5月からは、インスタグラム上で新企画『まるで品川区じゃないみたい！』も始まった。まるで海外のような風景の数々は、知られざる区内のインスタ映えスポットなのかもしれない。

東京2020大会に向けた情報発信も充実。この夏からは新たにLINE公式アカウントを開設したほか、しながわ観光大使のシナモロールが品川区3競技応援キャラクターとともに大会を盛り上げる企画も始まった。

品川区は、もともと「住みたいまち」系のランキングなどでもよくその名を見かけるエリア。東京2020大会でも注目を集めることになるだけに、さらなる仕掛けが楽しみだ。

わ!しながわ 京王線 車内広告（中づり・電車内ビジョン）

一般公募とアンケートによって選ばれたPRフレーズと区民アーティストによるイラストを組み合わせたインパクトのあるデザイン。あまり知られていない品川区の魅力をアピールしている。

わ!しながわ Instagram「まるで品川区じゃないみたい！」

フォトジェニックな区内の風景を続々投稿中！
知られざるインスタ映えスポットかも。

◎ 次の4ヵ所はどこでしょうか？

正解はこちら・・・
#まるで品川区じゃないみたい

わ!しながわ しながわ観光大使 シナモロールも応援！

©2001, 2019 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. G602084

しながわ観光大使シナモロール × 品川区3競技応援キャラの 仲良し大作戦! NAKAYOSHI DAISAKUSEN

しながわ観光大使のシナモロールと品川区3競技応援キャラクターが東京2020大会を一緒に盛り上げる「仲良し大作戦！」。特設サイトには、キャンペーン情報や4コママンガなど楽しい企画が満載。

「シナモロールのわくわくしながわタウン」
http://cinnamon-shinagawa.jp/

わ!しながわ しながわ 2020 特設サイト・SNS

東京2020大会の品川区に関する情報をあらゆるメディアで配信中。しながわ2020特設サイト・SNSをフォローしよう！

特設サイト
shinagawa2020.jp

twitter
@shinagawa_2020

Instagram
@shinagawa_2020

LINE公式アカウント
しながわ2020

Shinagawa City 品川区

品川区役所　東京都品川区広町2-1-36
TEL.03-3777-1111(代表)　www.city.shinagawa.tokyo.jp
開庁時間／8:30～17:00
休日／土日祝、年末年始(12月29日～1月3日)
※一部日曜開庁、火曜延長窓口あり

わ!しながわ
品川区シティプロモーション特設サイト
www.city.shinagawa.tokyo.jp/wa/
わ!しながわ 検索